

○ 即席送梓理

賞りていけしものありと能く言ひつゝこれに
細き戸子小窓ある恵知結ゆる創意の新
シテの格部ワ師凡そ書きたるもの利を
調達なりて著し事と頼む人の代は流義事乃
口より能く授けり七年以て再集のこぼれ朝
顔乃ちよ同は朝顔事也もさうして海老原の
花角力負るまはたとや別際へ着たあまた
とてで藤袴の折目にも君道一ぱせ女師と
福毛の招きあはしと来りてなご驚き一服
宵ふぬと所貴友あたる人の子び再拝して始
まらぬと雨乃ち藤袴仰て福がふみ此は樂の合
眼云際でも靴をおろす

九月十九日
十七日
あめりか
湯物通じ場上
江知楼

南柳樓新枝

京

即席御料理 園柳楼燕枝作 文庫10-8027-62

早稲田大学図書館蔵／Waseda University Library